

書紀歌謡二音節名詞の表記について : アクセント語類との関連をめぐって

高山, 倫明
九州大学大学院博士課程

<https://doi.org/10.15017/10493>

出版情報 : 文献探究. 12, pp.47-55, 1983-07-20. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :



書紀歌謡二音節名詞の表記について

高山倫明

万葉仮名(音仮名)は、字音を借りて日本語を写した、いわゆる借音仮名であるが、中国原音との相関性を分析する際、従来は超分節的要素を捨象して考えることが多かったようである。筆者は先に、『日本書紀』の音仮名表記の一部において、音仮名の原音声調が日本語のアクセントとある程度反映しているのではないかと推定を行なったが、それは主として書紀古字本に見られる声点との比較対照作業を通じてのものであった。本稿では、特に二音節名詞をとりあげ、アクセント語類とのかかりから、この問題の考察を試みようと思う。



書紀歌謡一二七首(全一二八首のうち、難訓歌として未だ定訓を見ない)と番歌謡(香明紀童謡)一首を除くから、二音節名詞を取り出すと、延べ三三一語、異なり語数にして一四四語を数えることができる(複合語の要素となつてゐるものはこゝではとりあげない)。それらの語彙を、音仮名の原音声調(調類)によつて分類すると、以下のようになる。但し同一語彙の異表記(例えば「山」における野麻・夜麻・耶麻など)も少なくないので、表記された語の統計は右の異なり語数をいくらか上まわることになる。

〔用例の下に所在を示す。漢数字は巻数、アラビア数字は歌謡番号。同一歌謡内に複数の用例を見るときは、その数だけ歌謡番号を記す。〕

- 〈平平〉
- 阿嬭(明見) 十五 86
 - 阿曾(朝見) 九 29 十一 62
 - 阿層(同上) 九 28
 - 阿彌(鯉) 二 3
 - 阿梅(天・雨) 十一 60 十三 72
 - 伊開(池) 十七 77
 - 伊齊(地名) 三 8
 - 伊波(老) 廿四 107
 - 于池(内) 九 28
 - 于知(同上) 九 27
 - 紆階(上) 十七 77
 - 紆鳴(魚) 十七 77
 - 於彌(臣) 十六 71 廿七 127
 - 柯楮(鷄) 十七 76
 - 伽辭(種) 十一 37
 - 伽多(方) 七 21
 - 柯陀(勢) 十四 65
 - 伽彌(司) 九 22
 - 柯微(神) 廿二 112
 - 岐農(衣) 七 27
 - 俱伊(梅) 廿七 124
 - 俱梅(氏族名) 十三 14
 - 俱護(雲) 廿六 116
 - 雀雀(叱起) 十一 43
 - 渠騰(言) 廿四 101
 - 居登(事) 十四 65
 - 渠梅(米) 廿四 107 107
 - 之之(猪) 十四 65 廿六 117
 - 斯斯(同上) 十四 65
 - 之獲(塩) 十四 41
 - 斯麻(鳥) 十四 65
 - 之麻(同上) 廿四 107
 - 齊乃(地名) 九 30 31
 - 曾雀(其処) 十一 43
 - 陀該(菽) 十四 65
 - 乃知(太刀) 五 20 七 27
 - 陀麻(玉) 廿七 125
 - 陀黎(誰) 十六 73
 - 知余(千代) 廿二 102
 - 都梅(頭) 廿七 124
 - 騰岐(時) 廿七 125
 - 那伽(中) 十 35
 - 灘羅(地名) 十一 54
 - 波刀(鳩) 十三 71
 - 波那(花) 十 35 十三 67
 - 望那(同上) 廿五 114
 - 彌知(道) 十 37 38
 - 毛苔(本) 三 13
 - 獲騰(同上) 廿五 114
 - 耶麻(山) 廿六 119
 - 由羅(地名) 十 41
- 〈平上〉
- 阿武(叱) 十四 65
 - 阿母(母) 十四 62
 - 伊養(今) 三 10 10 10 三 12
 - 伊母(妹) 廿五 114
 - 于受(磐華) 七 23
 - 于旋(地名) 十一 42
 - 柯彼(地名) 十四 81
 - 俱備(因) 十七 76
 - 雀等(琴) 十 41

。居等(事)十七 99 。 99倍(務)十四 74 。 知應(地名)十 34
。 那蘭(河)廿五 14 其 116 。 奴底(鐸)十五 88 。 耶陸(八重)十六 28 90
。 耶歷(山)十四 79

〔平去〕

。 阿嬰(吾君)九 27 十 35 。 阿誤(吾子)三 8 8 10 。 阿磨(天)二 3
。 阿妹(天)二 2 。 阿嗽(鮎)廿七 126 。 阿例(吾)一 4 廿七 126
。 伊戎(池)十 36 。 伊制(地名)十四 78 78 。 伊破(岩)九 32
。 伊弊(家)廿四 111 。 伊茂(妹)二 5 。 伊慕(同上)十 40 十 7 96 96 廿 113
。 伊暮(同上)十 43 。 于儂(地名)三 7 。 於夜(親)廿二 104
。 加礙(薩)十 32 。 伽未(神)十 37 。 區琪(圖)七 22 十 34 十 54 62 62
。 俱琪(同上)十 63 。 區茂(蜘蛛)十三 85 。 辭整(賜)三 7
。 思誅(鮪)十六 87 95 。 之利(復)十 37 38 。 須樹(末)十六 89
。 西渡(追門)二 3 。 蘇鐵(氏族名)廿二 103 103 。 99智(太刀)廿二 103
。 多磨(玉)二 2 。 多例(誰)十一 44 。 都磨(妻)十七 96
。 苔利(鳥)九 30 31 。 幡舍(山名)十三 71 。 導利(孫)十四 76
。 麻菟(松)七 27 27 。 魔幣(前)七 24 。 彌企(御酒)九 32 32 33 33
。 耶賦(八符)十六 91 。 和例(吾)十一 63 63 。 倭例(同上)七 96 96 廿四 110 111
。 烏志(鴛鴦)廿五 113 。 烏膩(老翁)廿四 107

〔上平〕

。 以祇(地名)十七 99 。 宇知(肉)十一 62 。 焉知(同上)廿六 119
。 禹杯(上)廿六 116 。 宇彌(海)十三 68 。 哥波(河)七 77
。 枳彌(君)十三 68 廿三 104 。 矩薩(靴)十四 81 。 愷那(毛野)十六 98
。 許辭(腰)十一 51 。 始施(下)十六 91 。 等能(殿)五 16 17
。 母勝(本)廿七 126 126 。 母能(物)十五 84

〔上上〕

。 宇倍(上)十 60 十四 76 。 宇應(鳥)十四 79 。 矩彌(圖)十四 75 82
。 舉始(膳)廿四 106 。 莒等(琴)十七 97 。 蒼庇(真木)十七 96

〔上去〕

。 美古(御子)廿七 127 。 野陸(八重)廿七 127 。 野歷(山)十四 77 77
。 以瑞(老)十 44 。 古磨(駒)廿五 115 115 。 柁例(誰)十四 78 80 廿五 113
。 等茂(伴)三 12 。 等利(鳥)三 12 十 35 七 96 。 等喇(同上)十七 96
。 彌播(庭)十四 74 七 96 。 府曳(笛)十七 97 。 輔曳(同上)十七 98
。 武志(虫)十四 74

〔上入〕

。 乃樂(地名)十六 96

〔去平〕

。 飲斯(地名)廿四 106 。 佐鳥(禱)十 42 。 馱聞(竹)十七 97
。 奈疑(水菴)廿七 126 。 臂苔(人)十一 42 。 臂毛(組)十三 66
。 赴尼(船)十 51 。 未那(管)十 35 。 茂能(者)十一 50
。 茂能(物)十一 54 。 暮能(同上)十六 94 。 曳施(枝)十四 76

〔去上〕

。 企彈(君)二 6 。 奈爾(河)廿七 128 。 奈礼(汝)廿三 104
。 洋娜(膚)十三 69 。 破葦(汝)十一 48 。 臂等(人)十三 71
。 夜歷(山)十四 77 77

〔去去〕

。 飲企(沖)二 5 。 箇破(河)十一 53 56 。 箇利(雁)十一 62 63
。 氣菟(人名)廿三 105 。 志々(鏡)十四 76 。 志磨(鳥)二 4
。 聲故(夫子)十三 65 。 制利(芹)廿七 126 。 馱例(誰)十七 97
。 度琪(刀首)廿七 124 124 。 鄧利(鳥)二 5 。 播磨(汝)二 4
。 避奈(夷)二 3 。 賊屨(地名)十六 94 。 寐運(水)十五 83
。 豫臂(宵)十三 65

〔入平〕

。 乙整(弟)二 2

〔入去〕

。憶金(津)ニク。吉備(地名)十。賊據(其地)十四七五
 〱複調字を含む表記

◎彌(平上)

〱一上。彌稚(御不)七四。彌開(同上)七四。彌知(道)十二六四

。彌柳(宮)十一五。彌柳(同上)十一五

〱一上。彌積(御酒)五七五。彌石(御子)十六八八。彌野(宮)十五四

〱一去。彌智(道)十五。彌致(同上)十十四八。彌豆(水)十三六

〱一輕。彌和(地名)五七六。彌和(同上)五七六

〱一上。彌瀨(海)三六六。於彌(臣)十一四。香彌(君)七四十一

〱一去。彌瀨(臣)十一四。彌瀨(上)十六九

〱一上。彌瀨(臣)十一四。彌瀨(上)十六九

◎摩(平)

〱一上。阿摩(天)三〇二。之摩(鳥)三二。都摩(是)十六八

。都摩(山)三二。都摩(鳥)三二

〱一上。宇摩(鳥)三三〇。古摩(駒)三三〇。拖摩(玉)十六九

〱一去。志摩(鳥)十三七〇。逗摩(是)六九。菟摩(同上)十三三〇

。夜摩(山)七二。夜摩(鳥)十三七

◎比(平上)

〱一上。比昔(人)三九九。比登(同上)十四九。比登(同上)十六九

。比鵬(同上)三四。比蘆(藤)十五

〱一上。比等(人)九三。比母(紐)七二。比礼(着布)十九

〱一去。比都(人)二六。比例(着布)十九

〱一上。伊比(領)三三〇

◎句(平)

〱一去。句致(也)三三

〱一上。句礼(地名)三三

◎和(平)

〱一去。和例(言)三三。和例(言)三三

〱一上。彌和(地名)下。彌和(地名)下

◎去(上)

〱一上。去等(言)十三

〱一去。去鐙(今度)十三

◎瑛(平)。瑛香(琦)十二

◎鞆(平)。伊鞆(家)七二

◎鞆(平)。于鞆(白)九

◎鳥(平)。那鳥(地震)十六

◎鞆(上)。留鞆(河)十五

◎軻(平)。軻茂(鴨)二

◎泥(平)。于泥(地名)九三

次に、これらの語彙を各時代のアクセント資料とつきあわせ、可能な限りにおいてアクセント語類への帰属を試みると次表のようになる。資料を左の如くに限ったこともあり、かなり曖昧な部分が残ってしまうが、不備な点は追いつ追いつ正すとして、今はまず大まかな傾向をとらえることに力を注ぎたいと思う。

さて、全体をひととおり見渡した限りにおいては、音仮名原音とアクセント語類との間に相関性らしきものは見出し難いのであるが、書記歌謡の音仮名原音を一律に扱ってはならぬことは、書記区分論、わけても近年の森博達氏の所説の教えるところである。そこで、以下、森氏の分類に従って、書記歌謡を以群(卷十四、十九、廿四、廿七)とB群(卷一、十三、廿二、廿三)とに分けて考えてみることにしよう。

〱表Iは、B群所屬の二音節名詞と音仮名原音の原音を調に

第一類

宵	枝	虫	宮	水	道	御	夏	笛	紐	夷	庭	鳥	伴	誰	竹	禾	崎	駒	腰	國	口	君	魚	語	
上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	書記
上上	上上	上上		上上		上上	上上	上上		上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	上上	名義	
上上		上上	上上	上上	上上				上上	上上	上上	上上	上上	上上		上上	上上	上上		上上		上上		古今	
					斗斗				斗斗	斗斗	斗斗	斗斗	斗斗	斗斗										四座	
										上上	上上	上上	上上								上上	上上		補心	
●●	●●	●●	●●	●●	●●			●●		●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●		●●	●●	●●	●●	●●	●●	平曲	
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	全国了	
〇B	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A		〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A		〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	明解	
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		

第三類

沖	馬	家	池	網	天	明
平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平
	平平	平平	平平	平平	平平	平平
平平				平平	平平	
		十	十			
		上平	上平			
●	●	●	●	●		●
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇
〇B	〇B	〇B	〇B	〇B		〇B
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇

第二類

公	昏	人	車	靴	河	方	形	上	内	岩
上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平
		上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平	上平
		斗十			斗十			斗十	斗十	
		上平			上平			上平	上平	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A	〇A
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

老	駕	語
上上	上上	書記
	上上	名義
	上上	古今
		四座
		補心
●		平曲
〇〇		全国了
〇〇		明解

山	物	者	本	花	次	水	股	時	玉	太	芥	後	鳥	塩	猪	梅	米	事	部	雲	神	親	弟	語
平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	書記
平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	名義
平平	平平	平平	平平	平平	平平		平平	平平	平平	平平	平平		平平	平平			平平	平平	平平	平平	平平	平平	平平	古今
		十	十	十	十				十	十	十										十			四座
上平	上平	上平	上平	上平					上平												上平	上平		補心
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	平曲
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇			〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	全国了
〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B			〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	〇B	明解
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	

鮫	雨	天	黙	上
早	早	早	早	早
早	早		早	
		早		
	十斗			
	○	○	○	
〇〇	〇〇		〇〇	
15B	15B		15B	
〇〇	〇〇		〇〇	

第五類

音	松	船	膚	汝	何	中	其	鳴	此	悔	衣	雁	司	上	海	白	妹	今
早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早
早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早
早	早	早		早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早
十斗		十斗			十斗	十斗			十斗				十斗	十斗				十斗
早				早	早	早							早	早				早
○	○	○			○	○	○		○		○	○	○	○	○			○
〇	〇	〇			〇	〇	〇		〇		〇	〇	〇	〇	〇			〇
1B	1B	1B	1B		1B	1B	1B		1B	1B	1B	0A	1B	1B	1B	1B		1B
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

第四類

毛野	毛津	吳	久米	吉備	甲斐	鎌倉	臣	宇治	宇陀	駿	飯	伊勢	志岐	吾	母	朝臣	吾子	吾居
上	上	上	早	早	上	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早
			早															
			早	上				上	早			上		早				
				〇〇				〇〇				〇〇	〇〇					
				2A				15A				2A	2A					
			〇〇					〇〇				〇〇	〇〇					

保留

前	鳩	琴	蜘蛛	鴨	種	蔭
早	早	早	早	早	早	早
早		早	早	早	早	早
		早	早			早
十斗			早			十斗
○	○	○				○
〇	〇	〇				〇
15B	15B	0B	15B	15B	15B	15B
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

忍	由良	八行	三輪	御木	御酒	布留	肩布	蒜	株	幡	鎌	地	奈	乃	頭	千代	千葉	栲	蘇	追門	瀬田	大	鯛	下	今
上	上	上	上		上	上		上	早	上	上	早	上	上	上	早	早	上	早	早	上	早	早	上	上
								上								早									
			上											早								早			上
																									上
																									上
					〇〇								〇〇	〇〇											〇〇
					2A								2A	2A											0A
					〇〇			〇〇					〇〇	〇〇											〇〇

Ia		第 二 音 節				
		平		上		去
第 一 音 節	平	彌知(處)十① 于池(田)九② 于知(〇)九② 伽多(方)七② 阿彌(綱)二③ 之斐(溫)十③ 勿知(太刀)五七③ 波那(花)十③ 毛苔(木)三③ 伽彌(司)九④ 岐巖(衣)七④ 虛虛(比也)十④ 會虛(類四)十④ 那伽(中)十④ 阿彌(天)十一⑤	阿彌(雨)十三⑤ 伽解(種)十④ 波刀(九鳥)十三④ 阿會(類四)九十一 阿層(〇)九 伊齊(伊勢)三 俱彌(久木)三 齊多(銀田)九 知余(十代)二 彌羅(原良)十一 由羅(由良)十	伊葦(今)三② 葦葦(律)十⑤ 于覺(解葦)七 于旋(早治)十一 知磨(十葉)十	區珥(圓)七十十① 俱珥(〇)十一① 勿別(錫)十一① 伊破(名)九② 阿層(天)二③ 伊成(池)十③ 於波(親)廿二③ 伽木(神)十③ 之利(獲)十③ 多智(太刀)廿二③ 多層(玉)二③ 伊茂(妹)二④ 伊慕(〇)十④ 伊落(〇)十一④ 解葦(鴨)三④	苔利(鳥)九① 麻菟(松)七④ 和別(書)十一④ 阿妹(天)二④ 加波(藤)十二④ 區茂(知味)十三④ 廣帶(前)七④ 阿藝(壽石)九十一 阿換(孝子)三 阿別(書)十一 于廣(自他)三 西渡(魚門)二 蘇鐵(蘇我)二 幡命(幡命)十三 彌全(御酒)九
	上	積彌(君)十三① 許詳(腰)十一① 宇知(田)十一②	等能(殿)五③ 宇彌(油)十三④	宇階(上)十一②	等茂(伴)三① 等利(鳥)三十② 以播(若)十一②	
	去	臂毛(紐)十三① 臂苔(人)十一② 木那(皆)十② 佐鳥(禪)十一③ 茂能(若)十一③	茂能(物)十一③ 赴尼(船)十一④	金珥(君)二① 臂葦(人)十三② 破葦(若)十一③ 奈乳(池)廿二④ 洋姆(膚)十三④	鄧利(鳥)二① 避奈(葉)二① 覆臂(臂)十一② 箇破(河)十一② 微全(沖)二③	志磨(鳥)二③ 播磨(漢)二③ 箇利(確)十一④ 氣茂(玉津)二 督政(天子)十二
	入	乙登(弟)二③			港全(沖)二③ 舌痛(地名)十	

Ib		第 二 音 節				
		平		上		去
第 一 音 節	平	道 ①①十 內 ②九 內 ②九 方 ②七 綱 ③二 塩 ③十 太刀 ③五③七 花 ③十③十三 本 ③二 司 ④九 衣 ④七 此丸 ④十 其心 ④十 中 ④十 天 ⑤十	雨 ⑤十 種 ⑤十 鳩 ⑤十	今 ④④④④④三 琴 ⑤十	園 ⑦⑦十⑦⑦⑦十 園 ⑦十 誰 ⑦十 若 ②九 天 ②二 池 ③十 親 ③十 神 ③十 後 ③③十 太刀 ③十 玉 ③二 妹 ④二 妹 ④十 妹 ④十 鴨 ④三	鳥 ①①九 松 ④④七 吾 ④④十 天 ⑤二 蔭 ⑤十 蜘蛛 ⑤十 前 ⑤七
	上	君 ①十①三 膝 ①十 內 ②十	殺 ②③五 海 ④十	上 ②十	伴 ①三 鳥 ①三①十 若 ②十	
	去	紐 ①十 人 ②十 皆 ②十 揮 ③十 者 ③十	物 ③十 船 ④十	君 ①二 人 ②十 洪 ③十 汝 ④二 層 ④十	鳥 ①二 夷 ①二 實 ①十 河 ②②十 沖 ③二	鳥 ③二 次 ③二 雁 ④④十
	入	弟 ③二			沖 ③二	

II a		第 二 音 節			
		平	上	去	
第 一 音 節	平	紆鳴(魚)ㄊ ① 施黎(誰)ㄊ ① 伊波(岩)ㄊ ② 紆階(上)ㄊ ② 柯施(形)ㄊ ② 阿須(明)ㄊ ③ 伊開(池)ㄊ ③ 柯微(神)ㄊ ③ 俱護(雲)ㄊ ③ 渠騰(言)ㄊ ③ 居登(事)ㄊ ③ 渠梅(米)ㄊ ③ 之之(豬)ㄊ ㄆ ③	斯斯(編)ㄊ ③ 斯麻(鳥)ㄊ ③ 之麻()ㄊ ③ 施麻(玉)ㄊ ③ 騰岐(時)ㄊ ③ 準那(花)ㄊ ③ 穰騰(本)ㄊ ③ 那麻(山)ㄆ ③ 俱伊(海)ㄊ ㄆ ④ 於爾(星)ㄊ ③ 柯指(錫)ㄊ ③ 施該(穀)ㄊ ③ 都梅(頭)ㄊ ③	俱備(國)ㄊ ① 耶陸(八重)ㄊ ② 屠等(事)ㄊ ③ 耶應(山)ㄊ ③ 伊母(妹)ㄊ ④ 那爾(何)ㄊ ㄆ ④ 阿武(此)ㄊ ㄆ ⑤ 阿母(母)ㄊ ㄆ 柯彼(雙)ㄊ ㄆ 勿倍(橋)ㄊ ㄆ 奴底(鐸)ㄊ ㄆ	煩衛(末)ㄊ ㄆ ① 烏志(鴛鴦)ㄊ ㄆ ① 烏鳳(老翁)ㄊ ㄆ ① 都應(妻)ㄊ ㄆ ② 伊弊(家)ㄊ ㄆ ③ 伊燕(妹)ㄊ ㄆ ㄆ ④ 濟例(者)ㄊ ㄆ ㄆ ④ 阿喻(魚)ㄊ ㄆ ⑤ 伊制(伊製)ㄊ ㄆ 思察(精)ㄊ ㄆ 溥利(棟)ㄊ ㄆ 耶賦(八角)ㄆ ㄆ 阿例(音)ㄊ ㄆ
	上	禹知(內)ㄆ ㄆ ② 禹林(上)ㄆ ㄆ ② 舜波(河)ㄆ ㄆ ② 矩霸(霸)ㄆ ㄆ ② 母滕(本)ㄆ ㄆ ③ 母能(物)ㄆ ㄆ ③ 懂那(毛野)ㄆ ㄆ	始施(下)ㄆ ㄆ 以祇(免夜)ㄆ ㄆ	矩備(國)ㄆ ㄆ ① 察始(贈)ㄆ ㄆ ① 奪紀(真木)ㄆ ㄆ ① 柔古(御子)ㄆ ㄆ ① 宇作(上)ㄆ ㄆ ② 野階(八重)ㄆ ㄆ ② 宇應(馬)ㄆ ㄆ ③ 野應(山)ㄆ ㄆ ③	菩等(琴)ㄆ ㄆ ⑤ 古應(馬)ㄆ ㄆ ① 施例(誰)ㄆ ㄆ ㄆ ① 等利(鳥)ㄆ ㄆ ① 苦喇()ㄆ ㄆ ① 備播(庭)ㄆ ㄆ ㄆ ① 肩鼻(笛)ㄆ ㄆ ① 輔鼻()ㄆ ㄆ ① 武亮(虫)ㄆ ㄆ ①
	去	駭開(竹)ㄆ ㄆ ① 魁施(枝)ㄆ ㄆ ① 奈疑(水葱)ㄆ ㄆ ③ 暮能(物)ㄆ ㄆ ③ 飲斯(忍)ㄆ ㄆ		復應(山)ㄆ ㄆ ③ 奈爾(河)ㄆ ㄆ ④	駭例(誰)ㄆ ㄆ ① 寐運(水)ㄆ ㄆ ① 志々(豬)ㄆ ㄆ ③ 制利(芥)ㄆ ㄆ ③ 度瑯(刀)ㄆ ㄆ 賦應(地)ㄆ ㄆ ㄆ 賊撥(美)ㄆ ㄆ ④
	入				

II b		第 二 音 節			
		平	上	去	
第 一 音 節	平	魚 ① ㄆ 誰 ① ㄆ 岩 ② ㄆ 上形 ② ㄆ 明日 ③ ㄆ 池 ③ ㄆ 神雲 ③ ㄆ ③ ㄆ 言 ③ ㄆ 事 ③ ㄆ 米 ③ ㄆ 編 ③ ㄆ ③ ㄆ	儲 ③ ㄆ 島 ③ ㄆ ㄆ 島 ③ ㄆ 玉 ③ ㄆ 時 ③ ㄆ 花 ③ ㄆ 本 ③ ㄆ 山 ③ ㄆ 梅 ④ ㄆ	國 ① ㄆ 八重 ② ㄆ ㄆ 華 ③ ㄆ 山 ③ ㄆ 妹 ④ ㄆ 何 ④ ㄆ ㄆ ㄆ 蛇 ⑤ ㄆ	末 ① ㄆ 鴛鴦 ① ㄆ 老翁 ① ㄆ 妻 ② ㄆ 家 ③ ㄆ 妹 ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ 吾 ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ 點 ⑤ ㄆ
	上	內 ② ㄆ 上 ② ㄆ 河 ② ㄆ 鞞 ② ㄆ 本 ③ ㄆ ㄆ 物 ③ ㄆ		國 ① ㄆ ㄆ 騰 ① ㄆ 真木 ① ㄆ 御子 ① ㄆ 上 ② ㄆ 八重 ② ㄆ 馬 ③ ㄆ 山 ③ ㄆ ㄆ	琴 ⑤ ㄆ 駒 ① ㄆ ㄆ 誰 ② ㄆ ㄆ ㄆ 鳥 ① ㄆ 鳥 ① ㄆ 庭 ① ㄆ ㄆ 笛 ① ㄆ 管 ① ㄆ 出 ① ㄆ
	去	竹 ① ㄆ 稜 ① ㄆ 水葱 ③ ㄆ 物 ④ ㄆ		山 ③ ㄆ ㄆ 何 ④ ㄆ	誰 ① ㄆ 水 ① ㄆ 豬 ③ ㄆ 芥 ③ ㄆ
	入				某處 ㄆ ㄆ

よ、て分類したものである。縦の欄が第一音節の原音系調、横の欄が第二音節のそれを示している。右で第一類と五類に分類した語彙につき、その類別を①②③④⑤の番号で示したが、この表からはそれら各類の分布にこれといった傾向を見出すことは難しいようである。〈表Ib〉では表記された延べ数だけ①②③④⑤の記号を表示したが、それでも事態に変化はなさそうである。

次に、以群所属の二音節名詞について同様の分類を行なつたのが〈表IIa〉及び〈表IIb〉である。これらの表になると先程と違って、そこに若干の傾向性を見ることができそうに思われる。すなわち、

(i) 〈上→去〉(上が第一音節の、下が第二音節の音調を示す。以下同様)の欄には、第一類名詞(①)のみが存する。

(ii) 〈平→平〉の欄は第三類名詞(③)が多数を占め、③はこの欄に集中する傾向を見せる。

ほかがそれぞれである。そのほか、〈上→平〉の欄に第二類名詞(②)が比較的多いこと、第四類名詞(④)は全体的に数が少ないが、そのほとんどが〈平→非平〉の欄に存すること、なども一応は指摘できようか。

尤も、各類の分布差は微妙なものであり、明瞭さと欠くことは見えておりである。ただここで注意されるのは、右にいう傾向性の、例外となつるものも多く、巻十四と十七及び巻七七所属のものである点で、同じ以群でも巻せ四とせ六のものに限って見ようならば、用例数の少なくなる分だけ説得力が減らることにもなりそうだが——各類の分布差はかななりは、きりしてころのである(表III)。すなわち、第一類名詞(①)は〈上→非平〉の欄、第二類名詞(②)は〈上→平〉の欄、第三類名詞(③)は〈平→平〉の欄、第四類名詞(④)は〈平→非平〉の欄に、とつた具合である。

III	第二音節			
	平	上	去	
第一音節	平	① 島 ② 花 ③ 本 ④ 者 ⑤ 山 ⑥ 岩 ⑦ 神 ⑧ 雲 ⑨ 言 ⑩ 米 ⑪ 緒	① 妹 ② 何 ③ 々 ④ 々 ⑤ 々	① 駕 ② 老 ③ 家 ④ 妹 ⑤ 々
	上	① 内 ② 上	① 腰	① 駒 ② 誰
	去			

ところで、平安時代後期の代表的アクセント資料日類聚名義抄に於ける二音節名詞各類への差声が、原則として

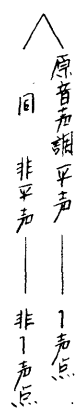
- 第一類 2 2
- 第二類 2 1
- 第三類 1 1
- 第四類 1 2
- 第五類 1 1 : 1 2 : 1 f

「いわゆる平声点、上声点、平声軽点、字音調類の呼称と区別する意味で、仮りに1:2:f」と記す。

となつてゐることは、あらためて言うまでもなかつた。今、差声にゆかりのある第五類を仮りに除いて考えようと、ここでのアクセント標示は、第一類と第二類、第三類と第四類のペアで第一音節のマークと第二音節で、第一類と第四類、第二類と第三類がペアとなつてマークと等しくしてゐるわけである(下回参照)。

第一音節	第二音節	
	1	2
1	③	④
2	②	①

右に見た各類の分布が、ちょうどこれと平行的な位置関係を有していることは注目すべき点である。筆者はかつて、巻三及び巻せ四とせ六の音仮名表記において、原音系調の調類と後世の書紀古写本における声点の加減状況に、



の如き「対応」が、傾向として看取されることを指摘した(27)から、それらの卷々の音仮名表記に書紀述作時の日本語のアクセントの反映が期待されるとの推論を得たのであるが、二音節名詞アクセント語類を通じての観察からも、ほぼ同様のことが言えそうに思われる。ちよみは、卷三について、用例が極度に少ないため分布差と呼べるものは残念ながら見られない。ただ、わずかな用例ではあるが、その現れ方はまがりなりにも卷廿四と廿六の場合に準じているかのように見える(表四)。

IV		第二音節		
		平	上	去
第一音節	平	本②	今④④④④④	鴨④
	上			伴鳥①①
	去			

以上、全般的に用例が少なく、種々の問題を残したままではあるが——各語彙のアクセント語類への帰属に關する部分など、殊におよく考へるべき点が多い——、一応、書紀音仮名表記の一部において、原音声調の調類の組み合わせとアクセントとの間にある程度の関連を見出すことができたように思う。しかしさらに三音節・四音節名詞あるいは他の品詞へと考察を広げる必要がある。後考に俟りたいと思う。なお、音仮名原音の頭子音(声母)における有聲無聲の別もピッチと関連をもつたかと思われるので、「韻鏡」の清・次清・濁・清濁の符組みて細分した表も別に作成してみたのだが、これといふ傾向は見出せなかった。この場合、陰調と陽調の別はひとまず考慮外に置いてよさそうに思う。

〔注〕

- (1) 拙稿「原音声調から観た日本書紀音仮名表記試論」(『語文研究』51)
- (2) 歌謠本文は大野晋氏「上代仮名遣の研究」後篇に於ける。正玉復合語の要素となっているか否かの判定に明確な基準を設けていないわけではないので、ここに示した用例数は確定的なものではない。
- (3) 原音声調は王仁明判謄補訳切韻(AD766)年撰と推定した。歌。諸彙の類別には以下の資料を参照した。
書紀——日本書紀古写本声母点
書紀——親智院本、回書本
意義——類聚名義抄(親智院本、回書本)
古今——秋永一校註、古今和歌集声母点、本の研究、索引篇、研究篇(上)
四座——金田一春彦氏「四座讀式の研究」
補志——補志記
平曲——奥村三雄氏「平曲諸本の研究」
全国アー平山輝男氏編「全国アクセント辞典」
明解——金田一春彦氏監修「明解日本読アクセント辞典」
- (4) 森博達氏「日本書紀」歌謠における万葉仮名の「特質」——漢字原音から観た書紀総合論——(『文芸』452)
- (5) 原音において複数の声調を有する音仮名は以下表に載らぬ。の際、複調子と仮称したものを||を含む表記は以下の表に載らぬ。
- (6) 注(1)拙稿では卷廿七も卷廿四と廿六と同列に扱ったのだが、その後に出した論考(未刊)では対応率の低下から間接一格を画した。なお本誌10号の拙稿「書紀歌謠音仮名と原音声調」での観察結果においても卷廿四と廿六と卷廿七の間には上声と去声字の出現率に若干の傾向差が看取された。
- (7) 書紀音仮名には全濁声母無声化の現象が反映しており、原音の体系では清濁に代って音節発端高度の差が弁別的であったかと思われる。